

葉山町立一色小学校

研究テーマ：仲間とともに主体的に学び続ける児童の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

1、実践の目的

一色小学校は2年計画で、道徳を研究してきた。道徳は、教科化されるにあたり、「考える」「議論する」というキーワードが注目されている。「子どもが自分自身の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して、自分のよりよい生き方を考えていく学習（光村図書 HP）」として、道徳の授業を実現させていくことが求められている。

2022年度湘三管内道徳研修会に向けて今年度は、昨年度に引き続き「考え・議論する」道徳の授業の実現を目指した。特に「物事を多面的・多角的に考える」授業方法の工夫に重点を置いて取り組んだ。

2、実践の内容

昨年度は、学習指導案に併せて『「考える道徳」「議論する道徳」における一色小の指導の手立て表』（以下「手立て表」と表記）を提案する形で進めた。この方法は、授業の組み立て方を理解し、指導と参観の視点を明確にするうえで有効であった。

一方、学年ごとに記載方法に異なっている部分もあり、「手立て表」のみで道徳の系統をみることは難しい部分もあった。

今年度は、昨年の反省点を生かして「手立て表」を改訂し、研究の重点である「物事を多面的・多角的に考える」授業方法の工夫を考える際に役立てることとした。

以下、今年度の各学年の道徳の授業の、主題、内容項目、教材名、そして板書を挙げる。

(1) 第1学年（2022.7.6 実施）

主題名；ともだちのことを かんがえて

内容項目；B友情・信頼

教材名；「二わのことり」（光村図書）



(2) 第2学年（2022.9.21 実施）

主題名； 明るい心で

内容項目；正直・誠実

教材名；「お月さまとコロ」（光村図書）



(3) 第3学年（2022.7.6 実施）

主題名； 公平なたいどで

内容項目；C公正・公平・社会正義

教材名；「なおとからのしつもん」（光村図書）



- (4) 第4学年(2022.6.13実施)
 主題名; 正直な心で
 内容項目; A正直・誠実
 教材名; 『正直』五十円分(光村図書)



- (5) 第5学年(2022.9.21実施)
 主題名; たがいに高め合いながら
 内容項目; B友情・信頼
 教材名; 「ドッジボール対決」(光村図書)



- (6) 第6学年(2022.6.13実施)
 主題名; 本当の友情
 内容項目; B友情・信頼
 教材名; 「ロレンゾの友だち」(光村図書)



3、実践の成果

研究成果の1つ目は「考え・議論する道徳」とするための、授業づくりの視点を得られたことである。特に、導入、展開、終末に、「考え・議論する道徳」となるための手立て

表の4項目をどのように位置づけていくのかという、「授業づくり」の視点が、育まれたということが大きいといえる。これは「指導の手立て表」を、学校全体で共有し、継続して活用するという、研究の手立ての効果が見られたといえる一面である。

2つ目は、私たちが、ひとつの「授業の型」の習得に迫れたことである。それは、授業で扱う内容項目をしっかりと絞って、提示してから始めるという型である。そして、その内容項目にかかわって、自分と対話、教材文と対話、友だちと対話、また、自分と対話。その型に、主体的に考えたいくなる仕掛け、深く考えたいくなる手立てを入れていくことができるようになった。

3つ目は、「多面的・多角的に考える」工夫が、ロールプレイの取り入れ方に表れてきたといえる。児童が、教材の中の、どの登場人物の立場も味わえるように、グループ内で役割をローテーションするロールプレイの方法である。実際、教員が提示したそれぞれのセリフから始まっても、最後は、教科書以外の様々な言葉が紡ぎだされ、道徳教材文の登場人物、その立場、立場ごとの気持ちを自分で感じてみるところが、「多面的・多角的に考える」ことにつながった。

4、今後の展開

学校全体で一丸となって道徳を研究することができ、児童にとっても、教員にとっても、深い学びにつながった。

今後も、学年やブロック、そして、全学年から集まっている学習指導グループなどを関わらせながら、相談できる仲間の教員と一緒に推進していく形を展開できるとよい。この2年間の研究の積み重ねを生かして、児童の主体的な学びのために、より良い方向を模索していきたい。